



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場

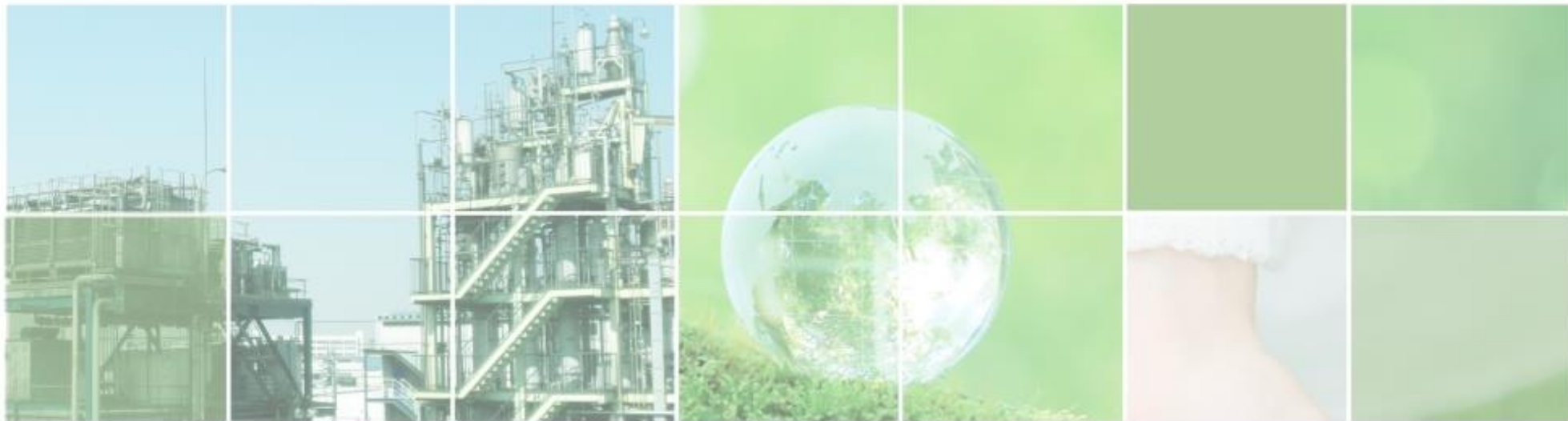
証券コード：4125

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

2024年11月8日

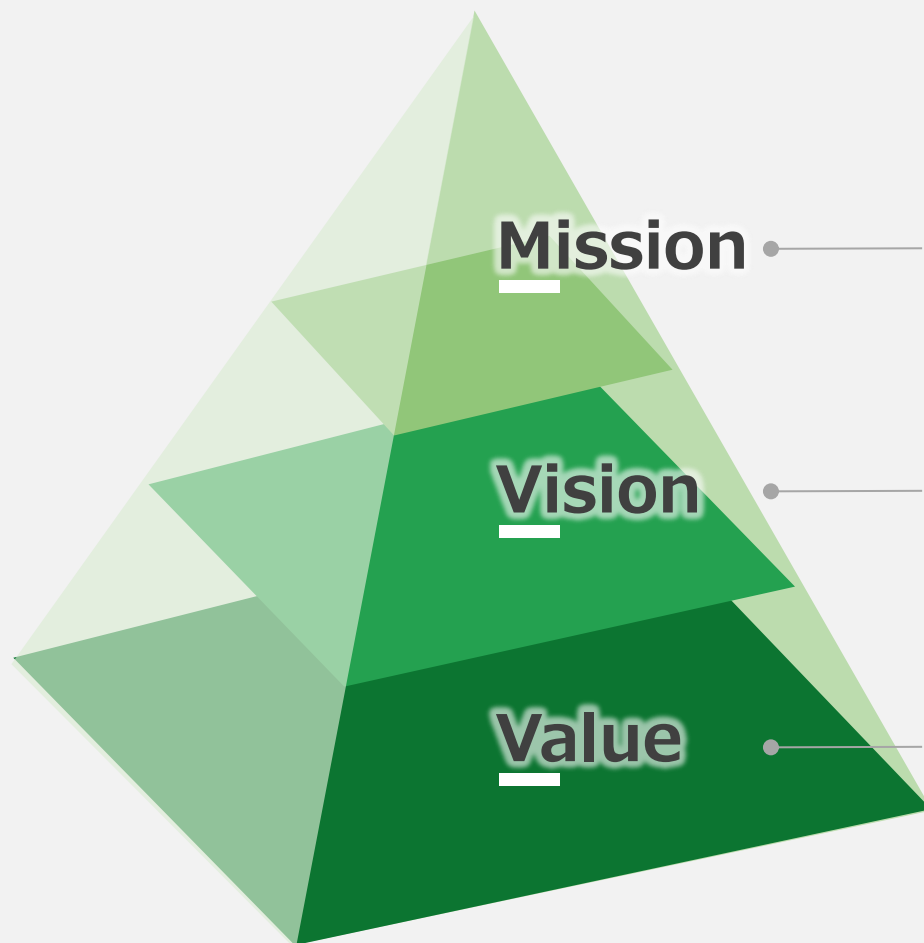


1. 会社概要	P. 3
2. 2025年3月期 第2四半期 決算概要	P. 7
3. 2025年3月期 業績予想	P. 19
4. 中期経営計画	P. 30
5. Appendix	P. 41



会社概要





我々は何のために存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに事業活動を展開し、持続可能な社会の実現への貢献

我々はどこに行こうとしているのか

社会から必要とされる環境リーディングカンパニーを目指す

我々は何を大切にしているのか

社会からより信頼されるよう、「責任」・「挑戦」・「創造」を根幹に、与えられた役割を常に考え、「誠実に、確実に」やり遂げる

■ リユース・リサイクル・化学品の3つが当社の主力事業

エンジニアリング事業

5.4% (24年3月期2Q : 5.4%)

PCB処理で培ったノウハウを活かし、プラント改廃時の清掃・解体・廃棄物処理をワンストップで実施

自動車事業

15.1% (24年3月期2Q : 14.8%)

自動車メーカー・自動車部品メーカーなど向けに潤滑油や金属加工油などの油剤製品、工業用洗浄剤及び自動車製造工程で使用される各種副資材を製造・販売

化学品事業

20.1% (24年3月期2Q : 26.5%)

有機化学品や無機化学品及びそれらを精製・加工した化学品の製造・販売及び受託加工

リユース事業

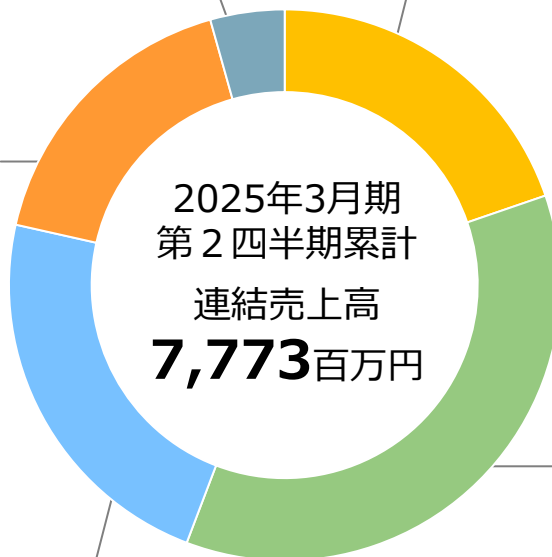
24.2% (24年3月期2Q : 18.4%)

使用済み廃溶剤、廃酸、有用金属等を含む産業廃棄物などを中間処分・再資源化し、元の用途や素材として再使用

リサイクル事業

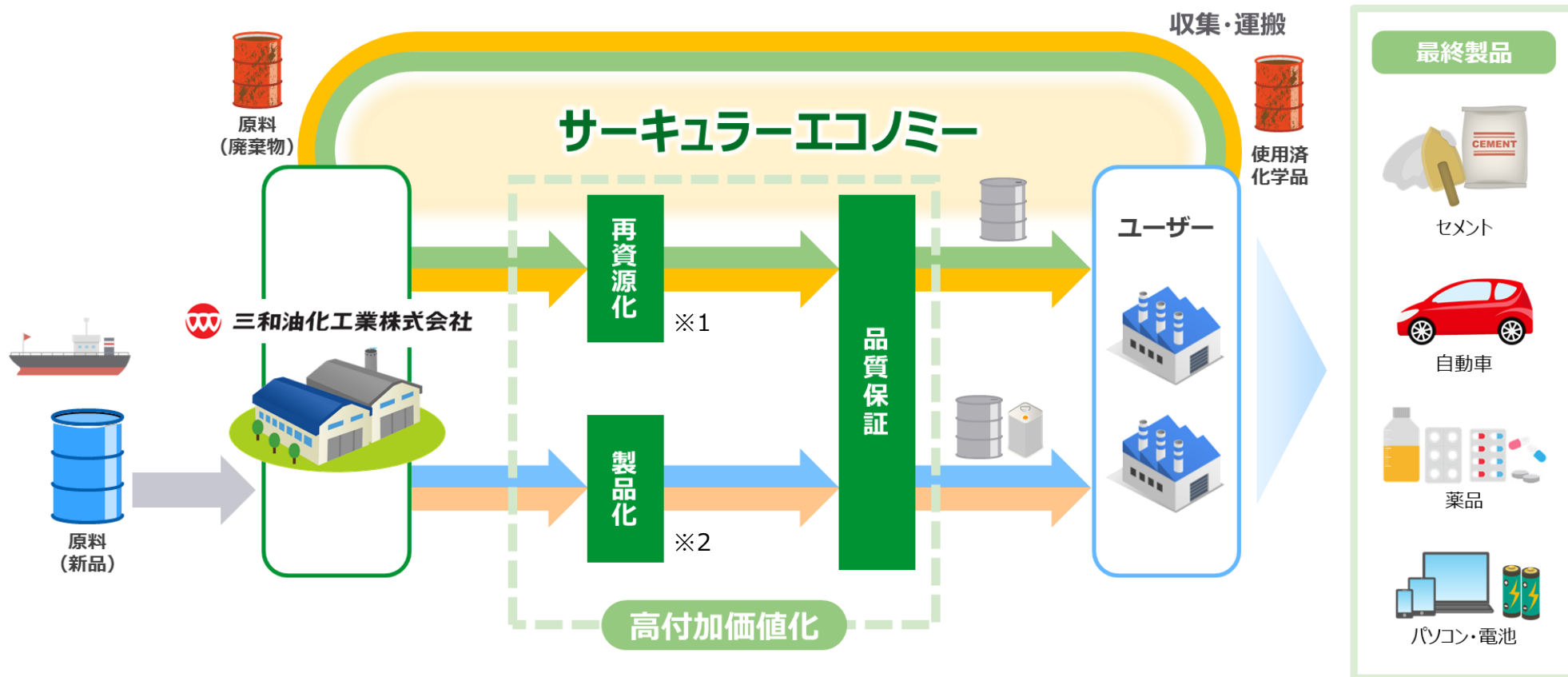
35.2% (24年3月期2Q : 34.9%)

使用済み廃溶剤、汚泥、廃プラスチック類などの産業廃棄物を中間処分・再資源化し、再生燃料やセメント・石灰・鉄鋼の副原料及び副資材としての2次利用を中心に再資源化



※ 24年3月期2Qは分類変更後の区分に組み換えしております

- 原料（新品）から製品製造及び品質保証を行う**メーカーとしての機能**
- 原料（廃棄物）から再資源化を行う**リサイクルメーカーとしての機能**
- 廃棄物、再生品および製品の品質管理を高水準で行うことにより**付加価値を最大化**



※1 再資源化とは、使用済化学品等の産業廃棄物を分離精製や混合することにより、再生品・再生燃料等を生産すること

※2 製品化とは、調達した原料を高純度化や調合することにより、ファインケミカル品・油剤等を生産すること



2025年3月期 第2四半期 決算概要



2025年3月期 第2四半期累計

売上高	営業利益	営業利益率
7,773百万円 【前年同期比】△3.0%	337百万円 【前年同期比】△56.1%	4.3% 【前年同期比】△5.2PT

事業環境

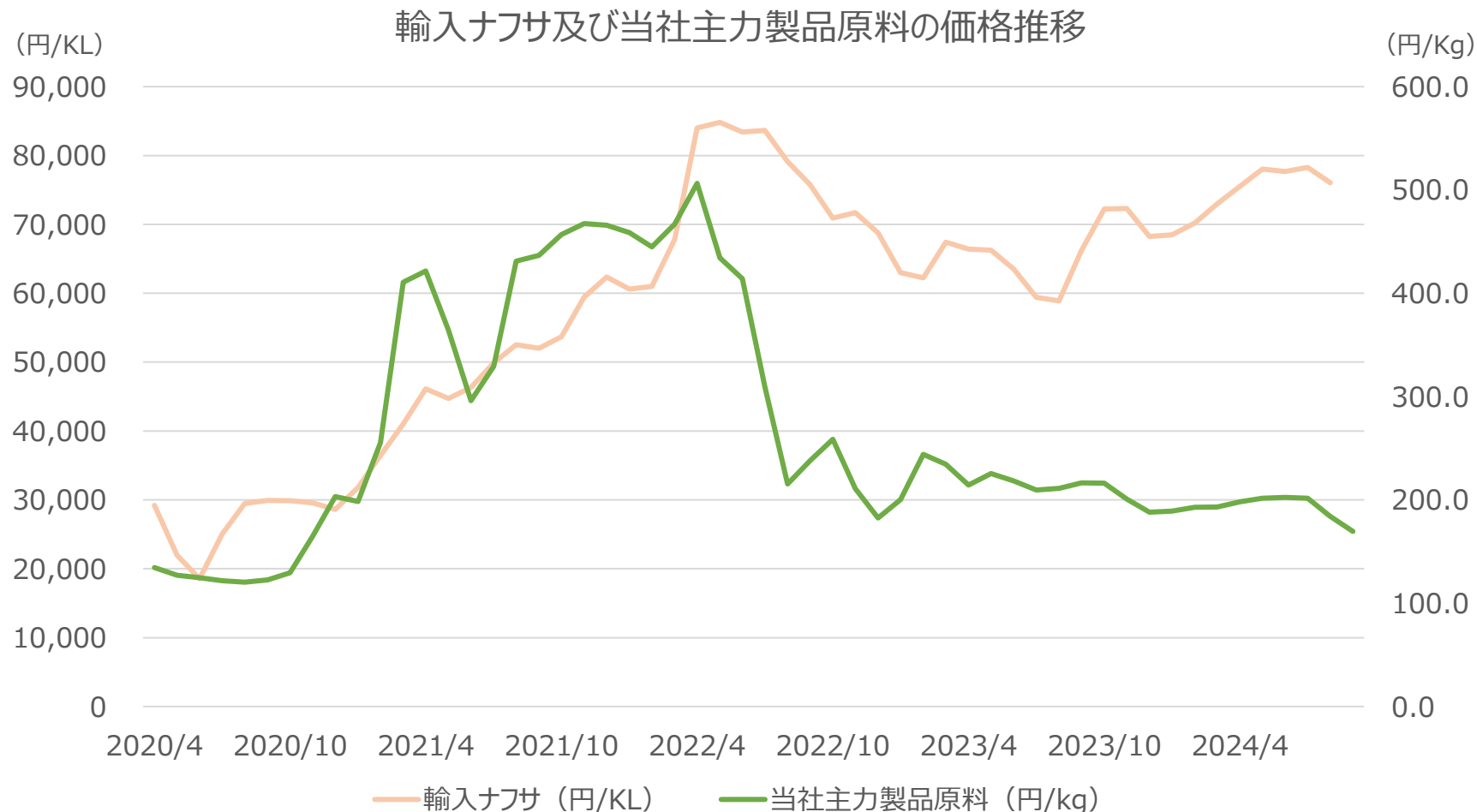
- 企業業績は緩やかに回復しつつあるが、一部を除いた半導体・電池業界では回復に遅れ
- エネルギー価格・原材料価格や人件費等の高騰により、コスト負担は増加傾向である

内部対応

- 半導体・電池・電子部品業界向け製品供給、廃棄物の再資源化及びエンジニアリング事業に注力
- 将来の需要増加に対応するために、設備投資による製品供給能力の増強および九州地区に子会社設立
- 事業拡大の準備のため人員増強やDX投資等は継続的に実施

⇒ **再生品販売は堅調であるものの、産業廃棄物引取単価の下落、電池業界向け製品販売の不振および管理コスト増加により減収減益**

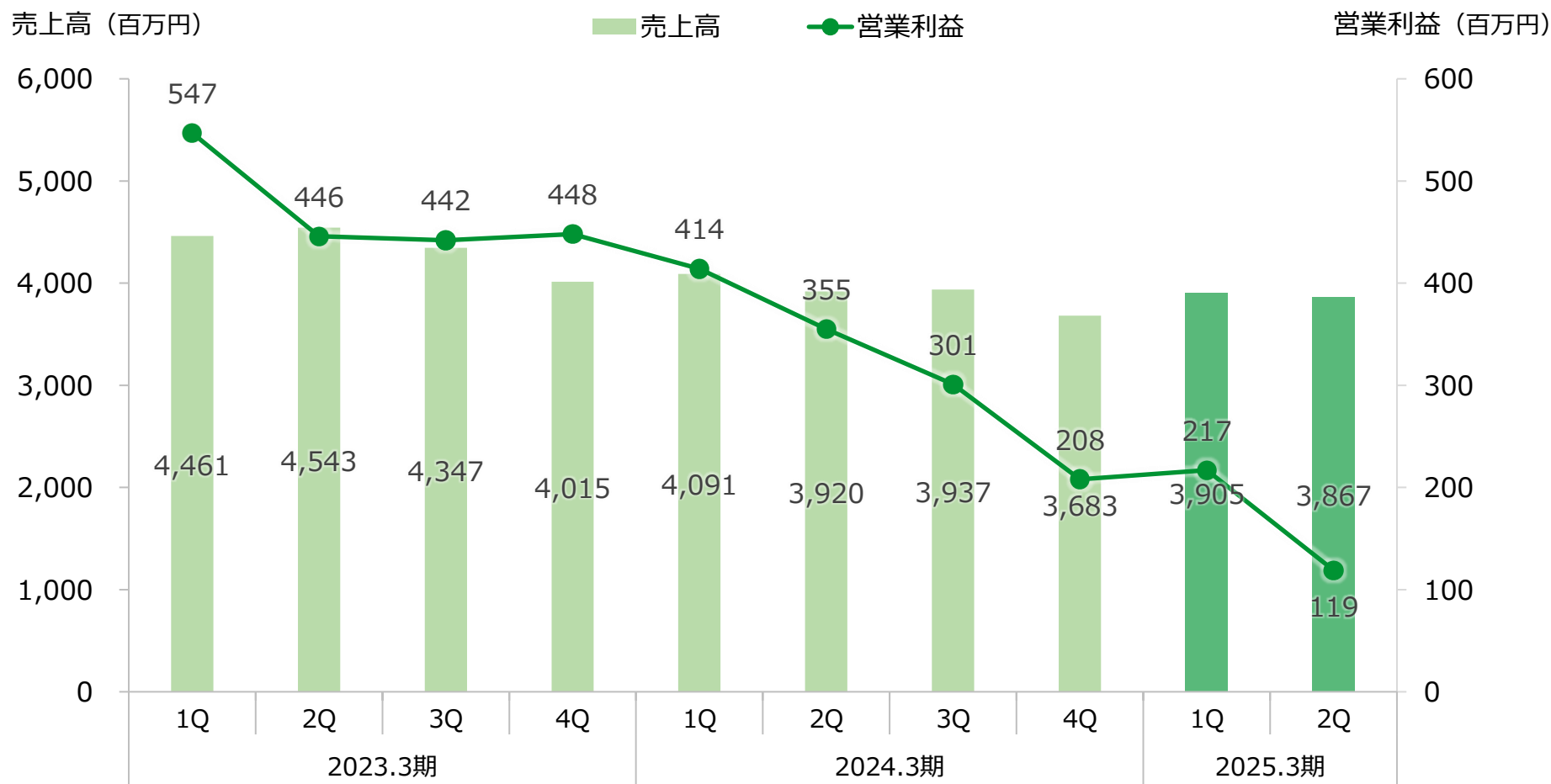
- 円安等による原油・ナフサの高止まりにより、物価は全般的に値上がりし負担は増加
- 中国での需要減退及び供給過多により当社主力製品の原料相場価格は低迷



- 再生品原料の仕入単価上昇・産業廃棄物の引取単価下落等により売上総利益率が低下
- 情報システム刷新等による管理費コスト増加により営業利益率が低下

(単位：百万円)	2024年3月期 2Q累計		2025年3月期 2Q累計		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	8,011	100.0%	7,773	100.0%	△238	△3.0%
売上総利益	2,419	30.2%	2,140	27.5%	△278	△11.5%
営業利益	769	9.6%	337	4.3%	△431	△56.1%
経常利益	787	9.8%	378	4.9%	△409	△52.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	527	6.6%	228	2.9%	△298	△56.6%

- 半導体・電池・電子部品業界の回復の遅れにより売上は伸び悩み
- 利益率の低下及び人員増強・DX投資等による固定費増加により利益減少



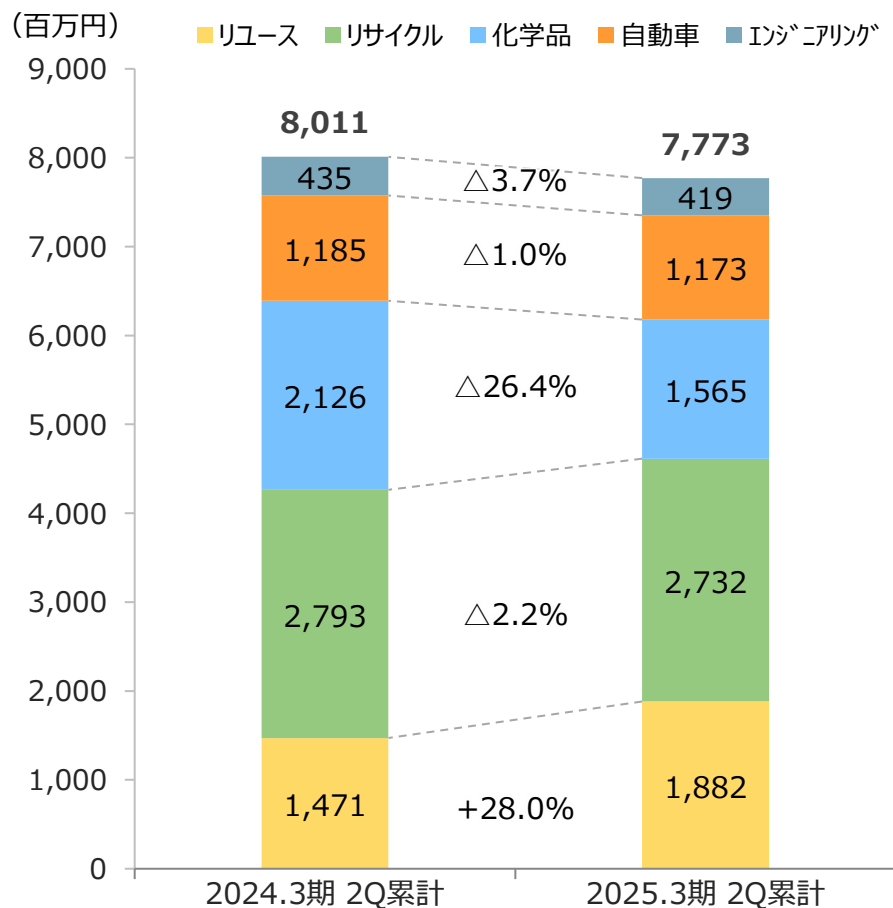
※2022.3期 3Qは上場関連費用等を計上しております

※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

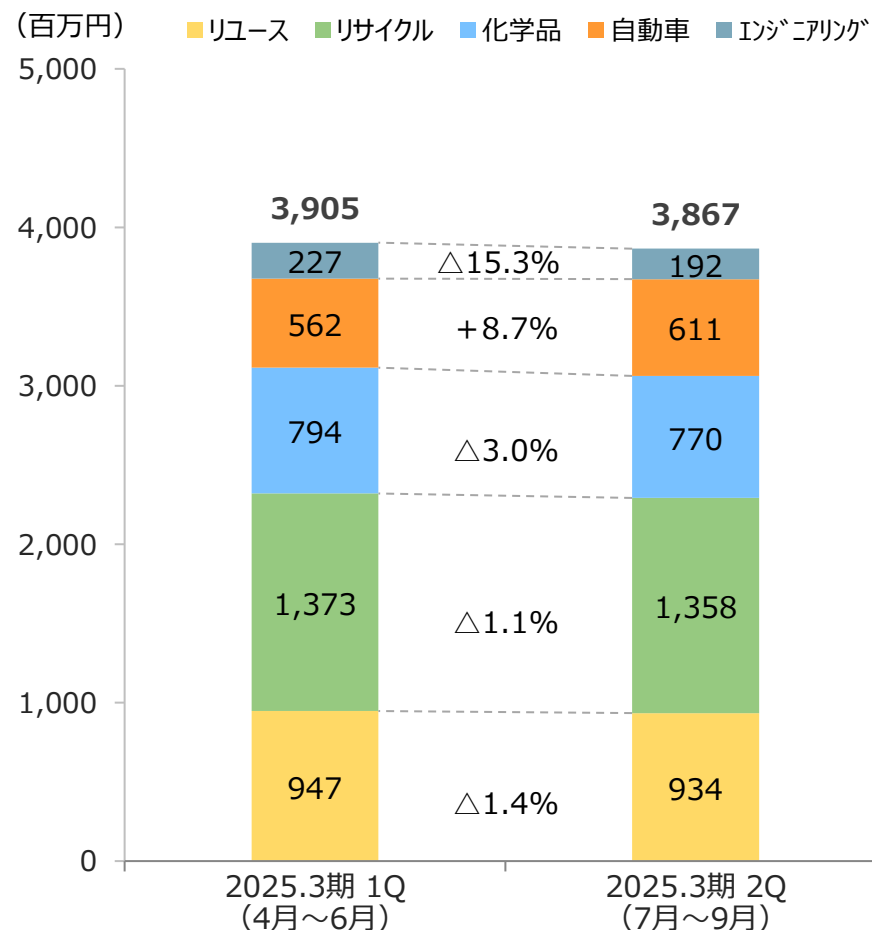
- リユース事業は再生品販売の数量・単価ともに上昇し売上高は堅調に推移
- 化学品事業はファインケミカル品の単価下落と電池業界向け製品の需要低迷により売上高減少

前年同期比 (YoY)

※ 24.3期 2Q累計は分類変更後の区分に組み換えしております



前四半期比 (QoQ)

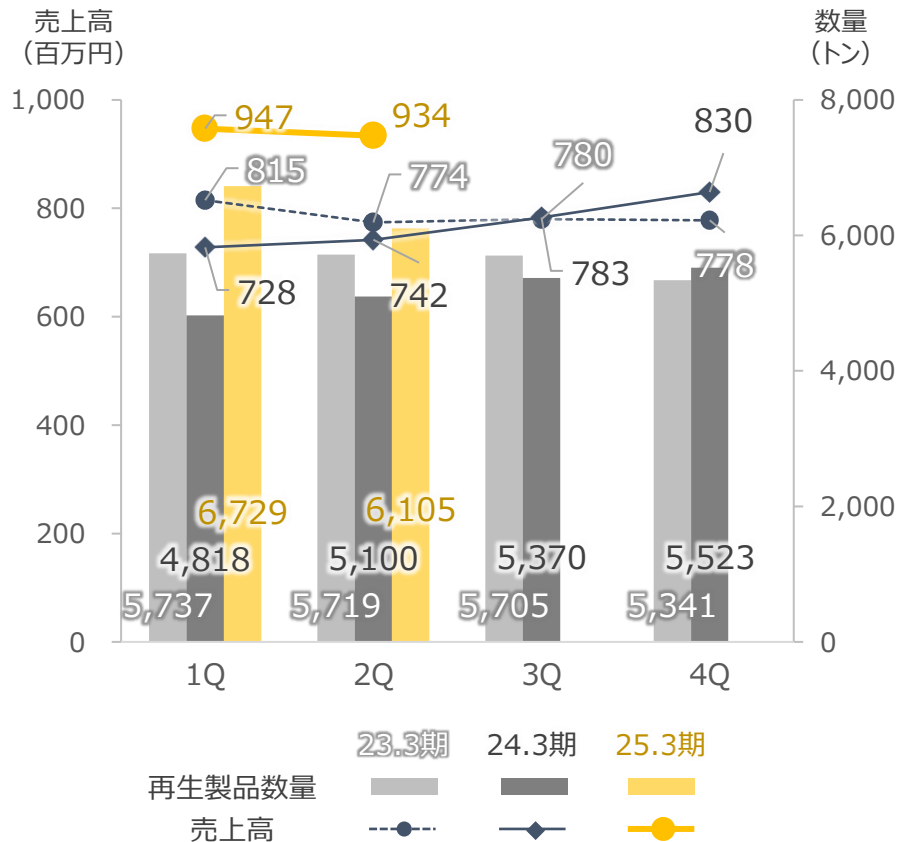




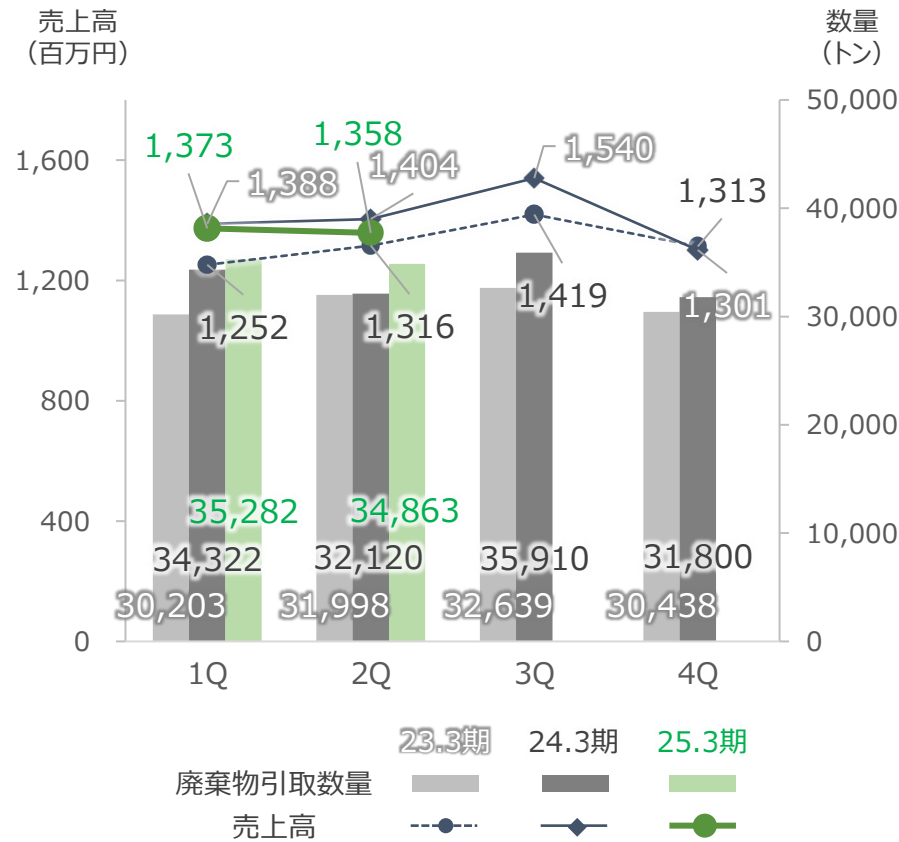
リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）



リユース事業



リサイクル事業



リユース事業売上と再生製品販売数量

- ・ 溶剤系再生製品は数量・単価ともに前年より上昇
- ・ 再生品原料となる使用済化学品の仕入単価も上昇

リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- ・ 廃棄物由来燃料の引合増により再生燃料の販売数量増加
- ・ 数量は増加したものの産業廃棄物の引取単価は下落

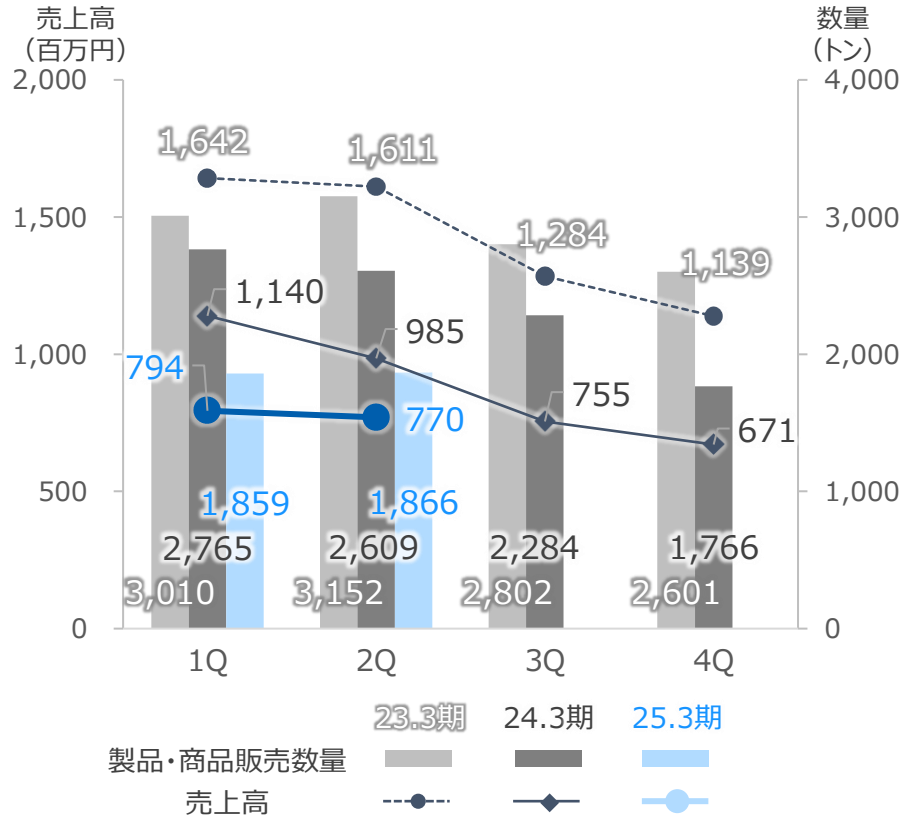
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品、自動車事業（四半期ごとの推移）



化学品事業

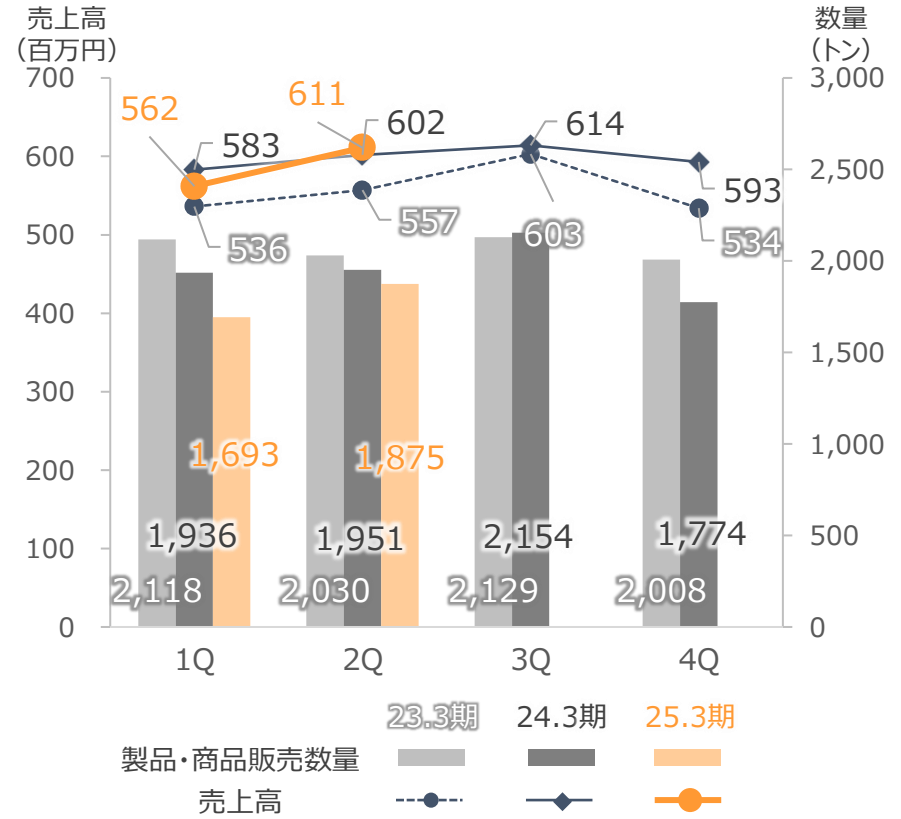


※ 製品：当社グループが品質保証する製造品 商品：転売品



自動車事業

※ 23.3期及び24.3期は分類変更後の区分に組み換えしております



自動車事業売上と製品・商品販売数量

- 自動車業界の不正影響が解消され製品販売数量は回復
- 価格はフォーミュラ方式により市場価格に自動連動

化学品事業売上と製品・商品販売数量

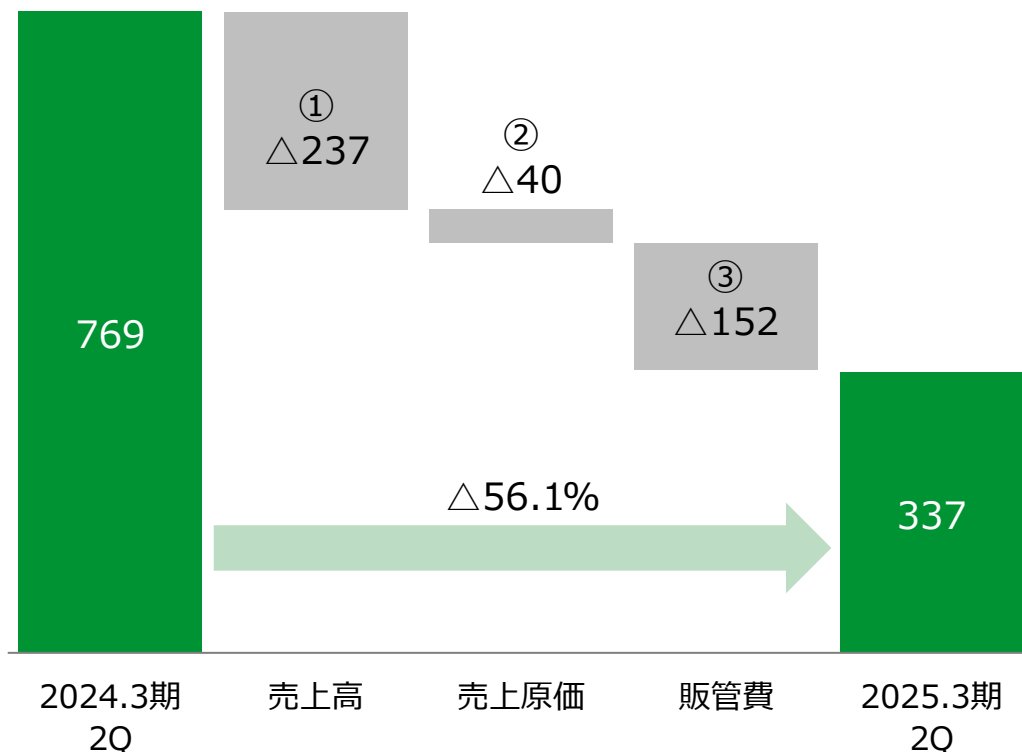
- 半導体業界向け**ファインケミカル製品は底を打ち回復の兆し**
- 電池業界向け**主力製品は計画比大きく下振れ**

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 化学品事業の売上が大幅減少、電池向け製品の需要回復遅れによる数量減少
- 東京支店の移転費用、人員増、DX投資等、**未来への投資は継続して実施**

(百万円)



① 売上高

- 〈+〉【RU】再生溶剤の販売数量は大幅増加
- 〈+〉【RC】再生燃料の販売数量は増加
- 〈-〉【化】電池向け製品の需要が戻らず

② 売上原価

変動費

- 〈-〉【RU】再生品原料の有価物の単価上昇
- 〈+〉【RC】取扱数量は増加したが産廃処理費は減少
- 〈-〉【全】外注運賃コストの増加

固定費

- 〈-〉投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈+〉保険料等の経費圧縮

③ 販管費

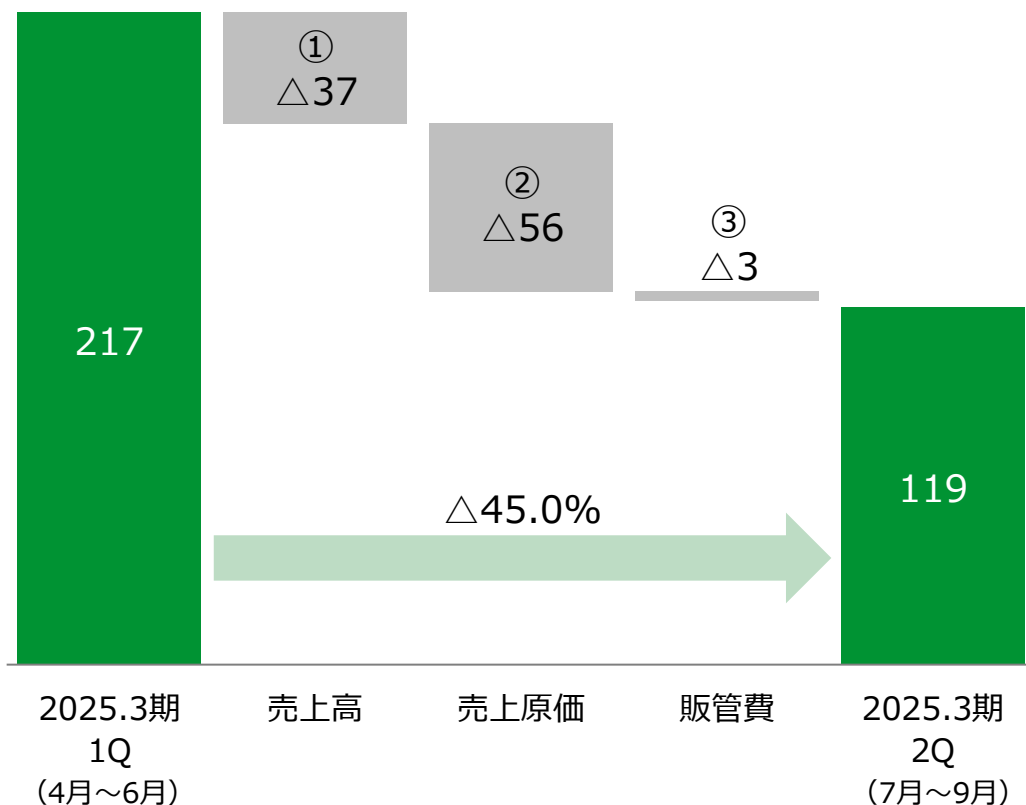
- 〈-〉人員増、ベースアップ等による人件費増加
- 〈-〉東京支店の移転費用
- 〈-〉職場改装費用、DX投資等による改善コスト増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 単価の高い産業廃棄物収集量の減少により引取単価平均が下落しが利益率が悪化
- 人員増・DX化等の将来投資による**負担は増加しており、今後も継続する**と見込まれる

(百万円)



① 売上高

- 〈-〉【RC】全体の引取数量は微増したものの、難処理物収集量減による**平均単価下落**
- 〈-〉【化】電池業界向け主力製品の販売不振
- 〈+〉【自】不正影響解消による販売数量の回復

② 売上原価 変動費

- 〈-〉【RC】自社の焼却炉定修により産廃処理費は増加
 - 〈-〉【全】原材料・容器代等の値上げ
- ## 固定費
- 〈-〉人件費の増加
 - 〈-〉修繕費・車両費等の増加

③ 販管費

- 〈+〉DX関連費用など将来投資費用は微減
- 〈-〉消耗品費、修繕費、求人費等は微増

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

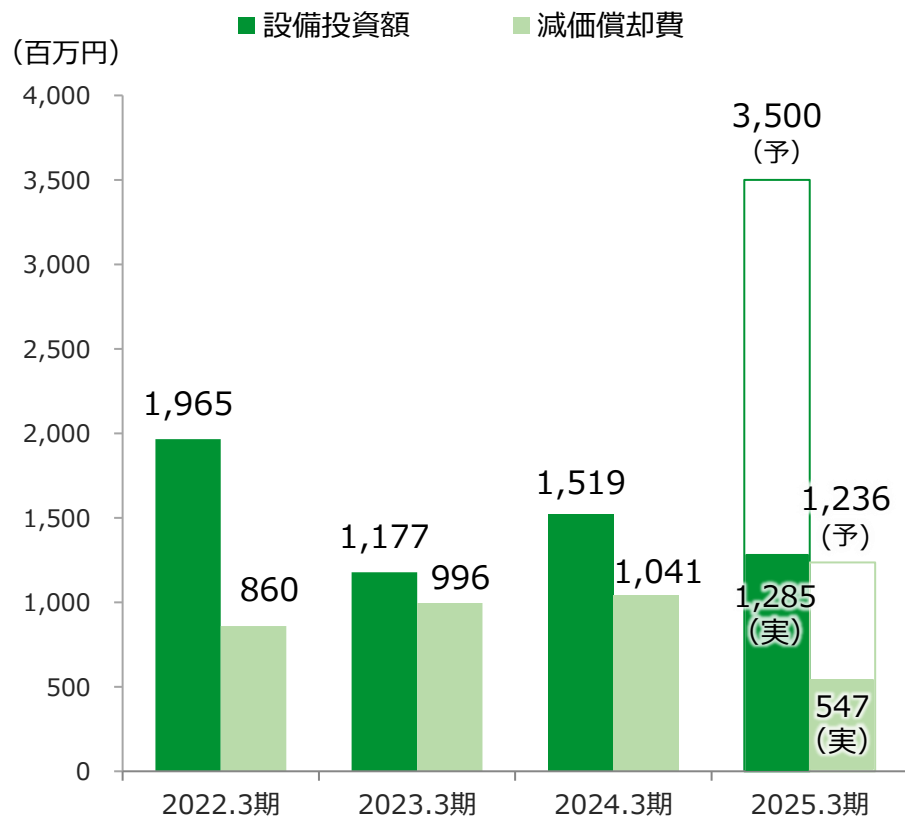
【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

貸借対照表

(単位：百万円)	2024年3月期末	2025年3月期 2Q末	前期比 増減額	コメント
流動資産	7,076	5,468	△1,607	設備代金支払等により現預金減少
固定資産	14,046	14,549	+502	設備投資により建設仮勘定が増加
資産合計	21,122	20,018	△1,104	
流動負債	4,928	3,963	△964	設備代金支払等により未払金減少
固定負債	4,114	3,906	△208	長期借入金の返済が進行
負債合計	9,043	7,870	△1,173	
純資産合計	12,079	12,148	+68	合併会社設立により非支配株主持分が増加
負債・純資産合計	21,122	20,018	△1,104	

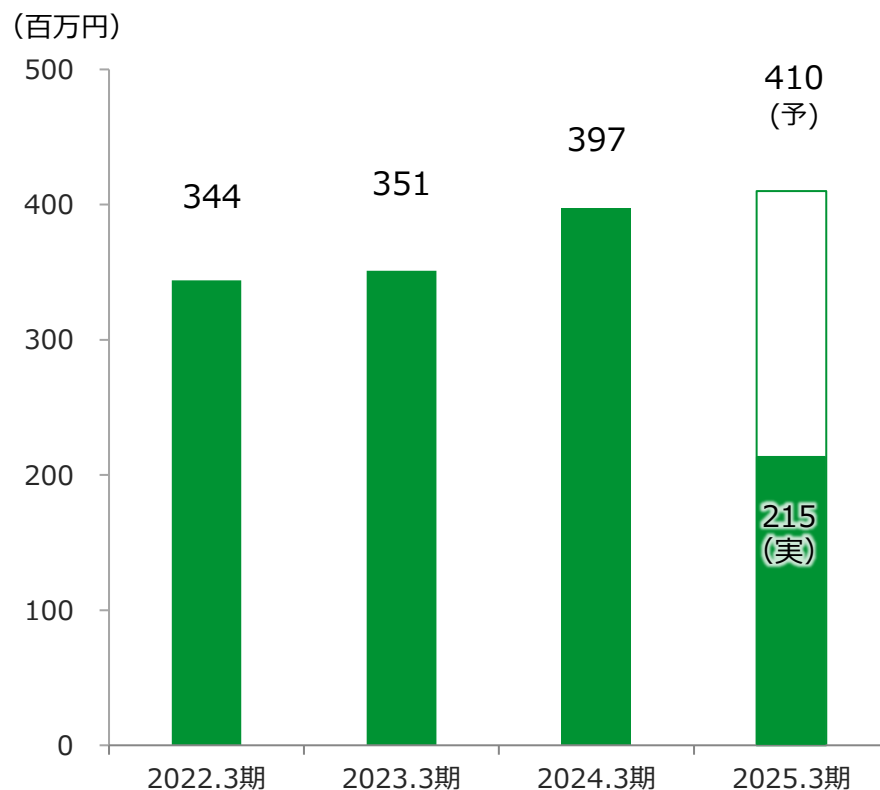
- 上期の投資は概ね計画どおり、研究開発は廃棄物の有効利用と電子材料向け製品関連が中心
- 下期の投資は子会社サンワマテリアルソリューションズの新工場建設の着手金などを予定

設備投資額・減価償却費



※減価償却費にはリース資産を含む

研究開発費





2025年3月期 業績予想



下期修正業績予想

- 半導体・電池・電子部品等の成長分野の回復は遅れているが中長期的な方針に変更はなし
- リユース・リサイクル・化学品事業は成長分野の回復に合わせて伸長を見込む

(単位：百万円)		上期			下期			通期		
		期初業績 予想	実績	達成率	期初業績 予想	修正後業 績予想	増減	期初業績 予想	修正後業 績予想	増減
売上高	リユース	1,750	1,882	107.6%	1,950	2,200	250	3,700	4,082	382
	リサイクル	2,900	2,732	94.2%	2,950	2,850	△100	5,850	5,582	△268
	化学品	1,750	1,565	89.4%	2,300	1,850	△450	4,050	3,415	△635
	自動車	1,200	1,173	97.8%	1,200	1,200	0	2,400	2,373	△27
	エンジニアリング	400	419	104.9%	600	600	0	1,000	1,019	19
売上高 計		8,000	7,773	97.2%	9,000	8,700	△300	17,000	16,473	△527
営業利益		550	337	61.4%	750	700	△50	1,300	1,037	△263
経常利益		560	378	67.5%	770	720	△50	1,330	1,098	△232
親会社株主に帰属する 当期純利益		400	228	57.2%	550	510	△40	950	738	△212

- 外部環境は徐々に回復基調を見込み、特に半導体・電池・電子部品等の成長分野が主要ターゲット
- 人件費・運賃等のコスト増加分を売価に転嫁することにより利益率の改善を見込む

(単位：百万円)		修正後 通期業績予想	2025年3月期 上期実績	進捗率
売上高	リユース	4,082	1,882	46.1%
	リサイクル	5,582	2,732	48.9%
	化学品	3,415	1,565	45.8%
	自動車	2,373	1,173	49.4%
	エンジニアリング	1,019	419	41.1%
売上高 計		16,473	7,773	47.2%
営業利益		1,037	337	32.5%
経常利益		1,098	378	34.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益		738	228	30.9%

事業種類別概況



リユース事業

- 電子部品関係がモビリティ向けで増加見通し、溶剤再生が活性化
- メモリ半導体関連顧客の稼働回復により、リン酸取扱数量が増加



リサイクル事業

- 石油代替のための廃棄物由来燃料は安定して強い需要を継続
- 単価の高い難処理物の引取を強化して収益・利益率を改善



化学品事業

- 中国を始めBEV市況は不透明で当社電池関連設備の稼働も不安定
- 半導体は下期に向けて回復見込むが想定より回復ペースは緩慢



自動車事業

- 顧客工場の稼働は徐々に回復し、販売量回復見込み
- 新しい機能材開発、顧客との関係性強化による他事業とのシナジー



エンジニアリング事業

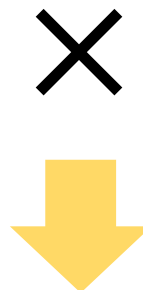
- 2027年の処理期限に向けてPCB案件は縮小見込み
- 特定建設業ライセンスにより、解体案件の受注を拡大

① 半導体業界における当社の戦略

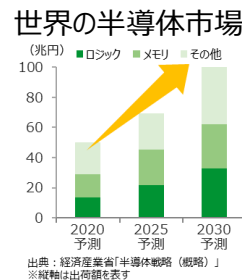
- 中長期的な成長が見込まれる半導体関連メーカーに対して、**ファインケミカル品の製造販売から使用済化学品の再資源化まで提案**しサステナブルな事業成長を実現

当社グループの強み (Strength)

- 半導体等で使われる高純度溶剤の要求品質に応えることができる**厳格な品質管理体制**
(ppbオーダーに対応可能) ※ 1ppb=1%の1千万分の1
- 副資材の販売と合わせて、使用済の溶剤・酸・アルカリの**最適な処分方法の提案**が可能
- 国内に数社しかないファインケミカル品と再生品の両方を製造できるメーカー



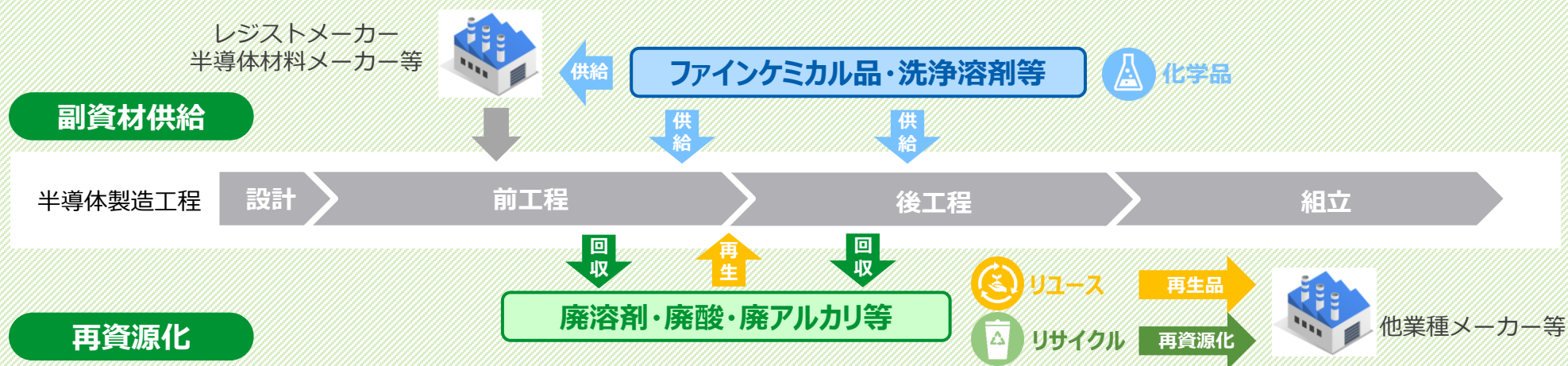
事業機会 (Opportunity)



- 世界の半導体市場の見通しは中長期的には明るく、100兆円規模まで拡大すると予測される
- 日本の半導体業界も世界の半導体市場における主要プレイヤーとなると予測される

強みを機会に対して活かす戦略

- 前・後工程で使用される**薬液の供給**と**使用済化学品の再資源化**

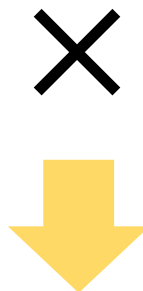


② 電池業界における当社の戦略

- 市場規模の拡大が見込まれるリチウムイオン二次電池関連メーカーに対して、幅広いモノの取扱いと製造販売から再資源化まで提案することによりワンストップサービスを提供

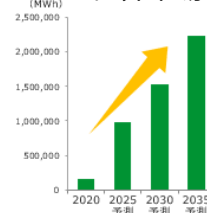
当社グループの強み (Strength)

- 化学品を高レベルで分離・精製する技術力
- 低水分下で複数の化学品を均一に混合する技術力
- 国内外の複数ルートから有機溶剤を安定的に調達し、当社倉庫・タンクや外部倉庫にて一定量保管
- 自動車メーカーとの強固な関係性



事業機会 (Opportunity)

LiBの世界市場

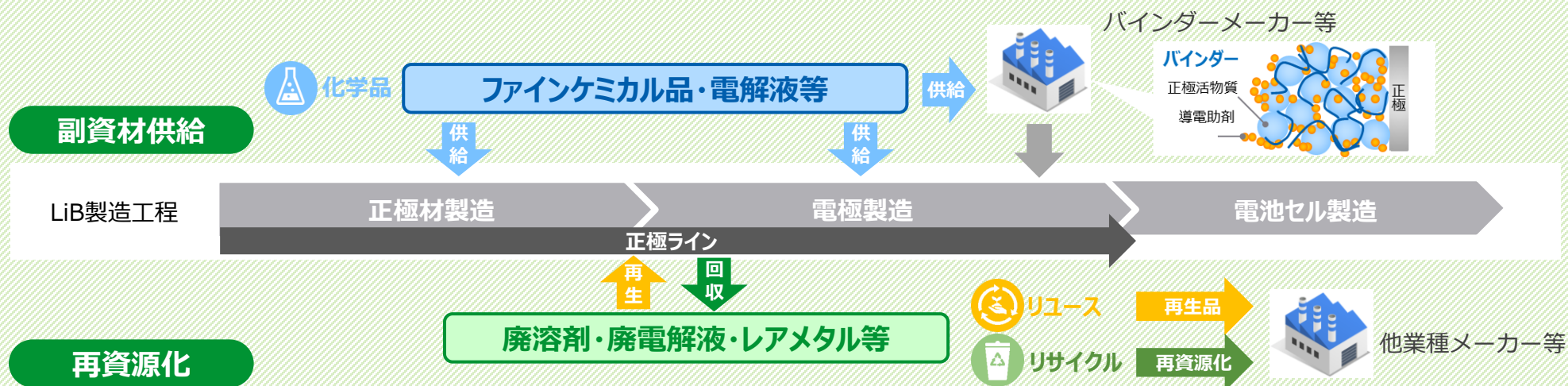


出典：矢野経済研究所発表
『車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査を実施 (2023年)』

- 国内外の電池市場の見通しは、車載用はじめ高い成長率で推移すると予測される
- 蓄電池等は特定重要物資に指定されており、国策として伸ばしていく重要マーケットとされている

強みを機会に対して活かす戦略

- ファインケミカル品や機能性材料の供給と使用済化学品の再資源化



③ 電子部品業界における当社の戦略

- 成長が見込まれる電子部品メーカーに対して、ファインケミカル品・再生品の製造販売やアライアンス先との協業等による受託再生により**資源循環ニーズ**に応える

当社グループの強み (Strength)

- 高い**品質要求**に応えることができる**管理体制**
- 多様なニーズに対応でき、メーカーからの**直需が多い**
- アライアンス体制を活かし、**ユーザーの近くで再資源化**



▲ アライアンス先

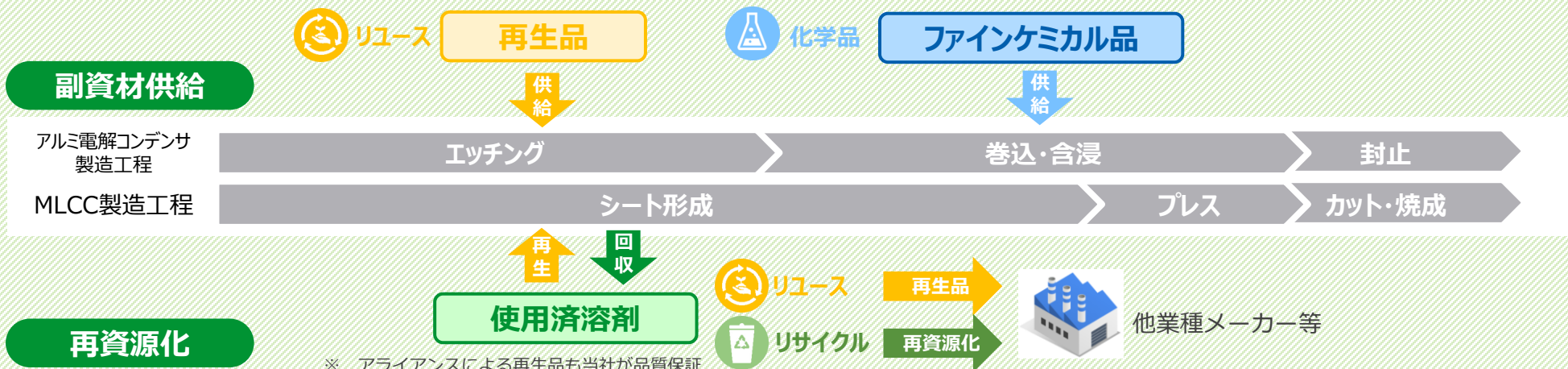


事業機会 (Opportunity)

- DX化が推進される社会において、電子部品の需要は一層高まると予測される
- 積層セラミックコンデンサ (MLCC)、アルミ電解コンデンサは、2030年にかけてCAGR約5%の成長が見込まれている
- 日本のコンデンサメーカーは世界の主要プレイヤーである

強みを機会に対して活かす戦略

- **ファインケミカル品・再生品の供給と使用済化学品の再資源化**



※ アライアンスによる再生品も当社が品質保証

④ エンジニアリング事業における当社の戦略

- PCB事業で培った作業・解体ノウハウを活かし、工場改廃ニーズを取込みエンジニアリング事業を拡大
- 解体工事により発生する残液や金属を回収し、リユース・リサイクル事業により再資源化

当社グループの強み (Strength)

- 産廃処理・収運および**特定建設業の許可**を有し、清掃・解体・廃棄物処理等を一手に担うことができる
- 危険物や強酸等、**化学物質取扱いのプロ**として安全かつ最適な処分方法を提案
- **石油関連企業、化学関連企業との強固な関係性**



▲産業廃棄物の収運



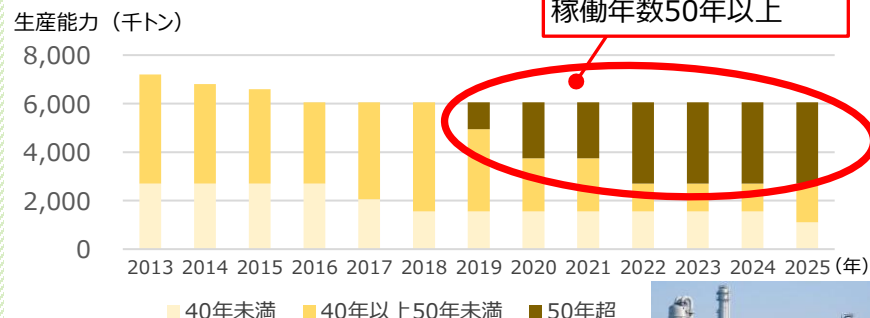
▲清掃作業の様子



事業機会 (Opportunity)

- 高度経済成長期に建設されたプラントが改廃される時期
- 業界再編により国内エチレンプラントの統廃合が加速

エチレンプラント設備の稼働年数



2022年には半数以上が稼働年数50年以上

出典：重化学工業通信社

「日本の石油化学工業50年データ集」

エチレンプラント▶



強みを機会に対して活かす戦略

- **残液抜き取り・処理から設備撤去までワンストップサービスを提供**
撤去する設備内に残った残液等を回収し、リユース・リサイクルとのシナジー効果による再資源化



エンジニアリング



リユース



リサイクル

タンク解体の様子▶



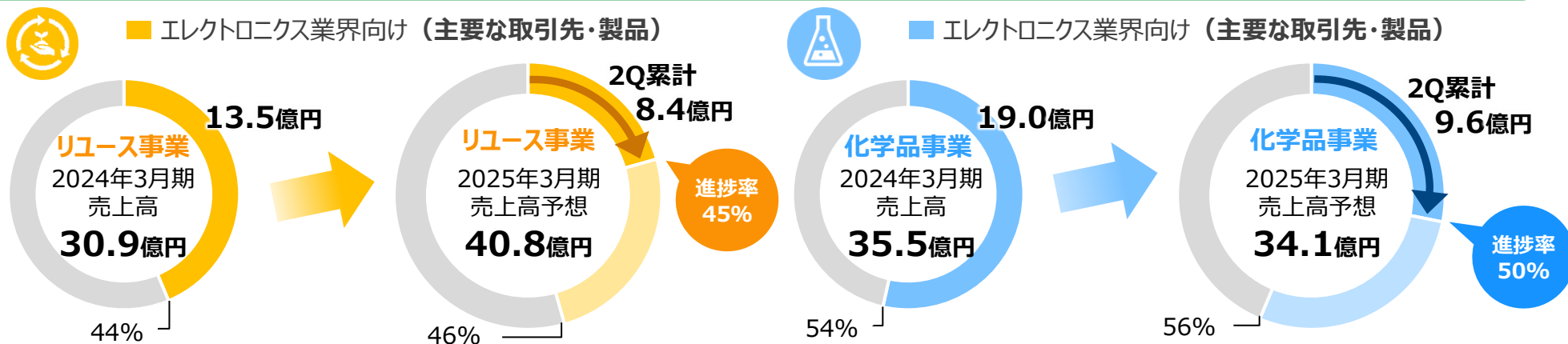
成長分野と当社事業分類の関係性

- 半導体・電池及び電子部品業界の回復は予想に反し遅れており、**高付加価値品の販売は不振**
- 中国EVメーカーの不振により**電池業界向け主力製品は計画比大幅減収**
- 一部メーカーの稼働回復により半導体業界向けファインケミカル製品は計画比増収
- ◆ 成長分野における売上見込（**主要な取引先・製品の集計**）

取引種別	当社事業分類	2024年3月期	2025年3月期				
			予算		実績	進捗率	
			上期	修正後通期	2Q累計	上期	修正後通期
① 半導体	リユース・化学品	6.9億円	3.5億円	7.5億円	4.6億円	131%	62%
② 電池		11.5億円	6.1億円	11.4億円	4.7億円	78%	41%
③ 電子部品		4.6億円	2.8億円	6.4億円	2.8億円	98%	44%
①-③ 引取廃棄物の再資源化分	リユース・リサイクル	14.7億円	6.1億円	13.4億円	6.4億円	105%	48%
④ 解体・清掃作業等	エンジニアリング	3.0億円	1.8億円	4.8億円	1.2億円	67%	26%
①-④ 上記成長分野の合計		40.7億円	20.5億円	43.7億円	19.9億円	97%	46%

リユース・化学品事業におけるエレクトロニクス業界※向け売上高

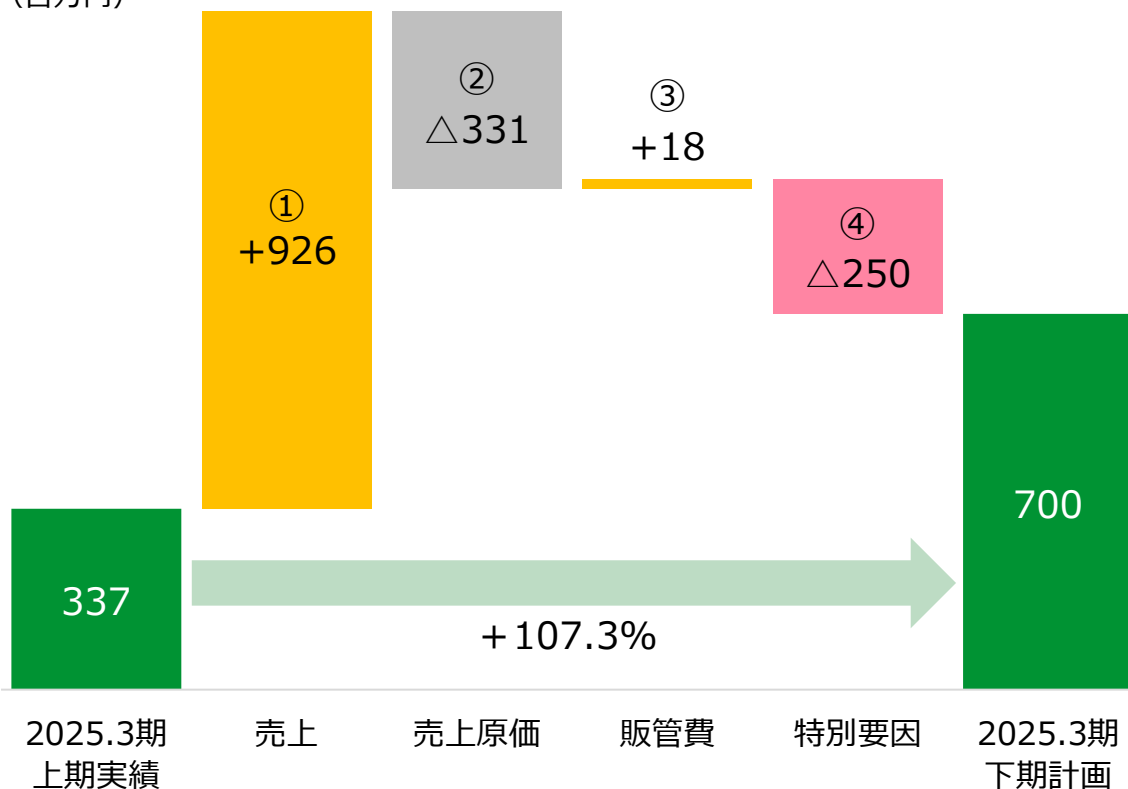
※半導体・電池・電子部品業界



営業利益増減要因分析（上期比）

- 遅れはあるものの半導体・電池・電子部品業界向け製品販売等を中心に増収を見込む
- 化学品・油剤・運賃等の原価上昇分を**売価に転嫁することにより利益率を改善**

(百万円)



① 売上高
 〈+〉【RU】【RC】【化】半導体・電池・電子部品業界向け中心に増収計画
 〈+〉【全】化学品・油剤を中心とした値上対応

② 売上原価
 変動費
 〈+〉【RC】付加価値増による産廃処理費抑制
 〈-〉【全】外注運賃・運送経費は上昇
 固定費
 〈-〉蒸留塔の稼働開始に伴う減価償却費増加

③ 販管費
 〈+〉業務委託費等の管理費圧縮

④ 特別要因（2025.3期のみ発生）
 〈-〉退職給付会計の基準変更により費用増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品

2025年3月期 上期

- 半導体・電池・電子部品業界の**回復の遅れや、中国での需要減退により、**ファインケミカル品や有機溶剤再生について、**当社見込ほど需要はなかった**

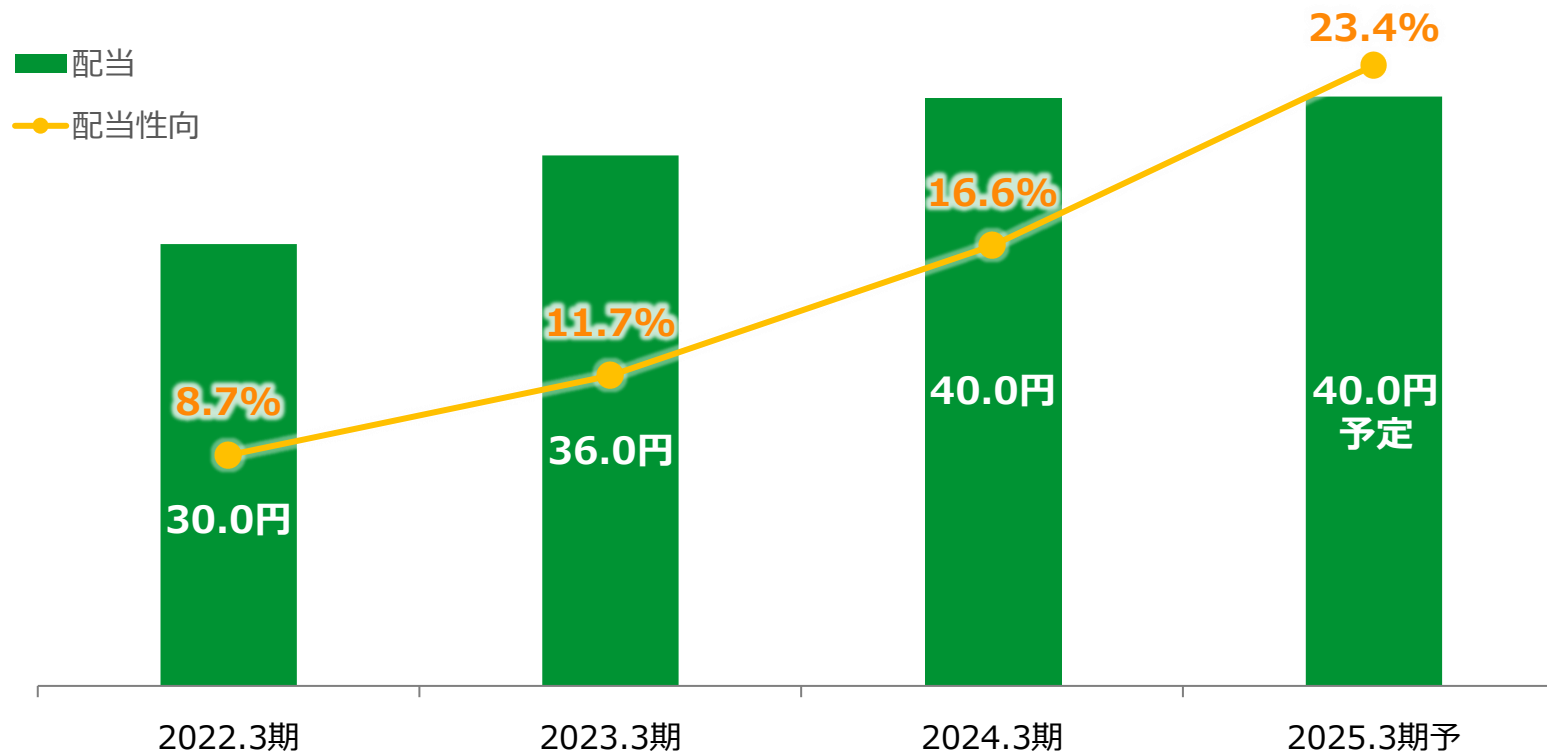
2025年3月期 下期以降

- 成長が見込まれる半導体・電池・電子部品業界等の需要増加に備え、**設備投資・人員増強・人材教育・DX化等の将来投資は継続して実施**
- 原価低減・経費削減等の**ムダの排除によるコスト削減を徹底して実施**
- 当社の収益・利益計画に遅れはあるものの、**中長期的な計画に変更はなく、**半導体・電池・電子部品業界が活況となれば、その需要をしっかりと取込み、**グランドビジョン2030達成に向け成長を加速**させる

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



※2022.3期の1株あたり配当金30円につきましては、普通配当25円のほか記念配当5円を含んでおります。



中期経営計画



- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

事業環境

大企業を中心としたサステナブルニーズ

- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素
- 資源調達リスク等の課題解決

半導体・電池・電子部品のマーケット拡大

- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

自社グループの強み

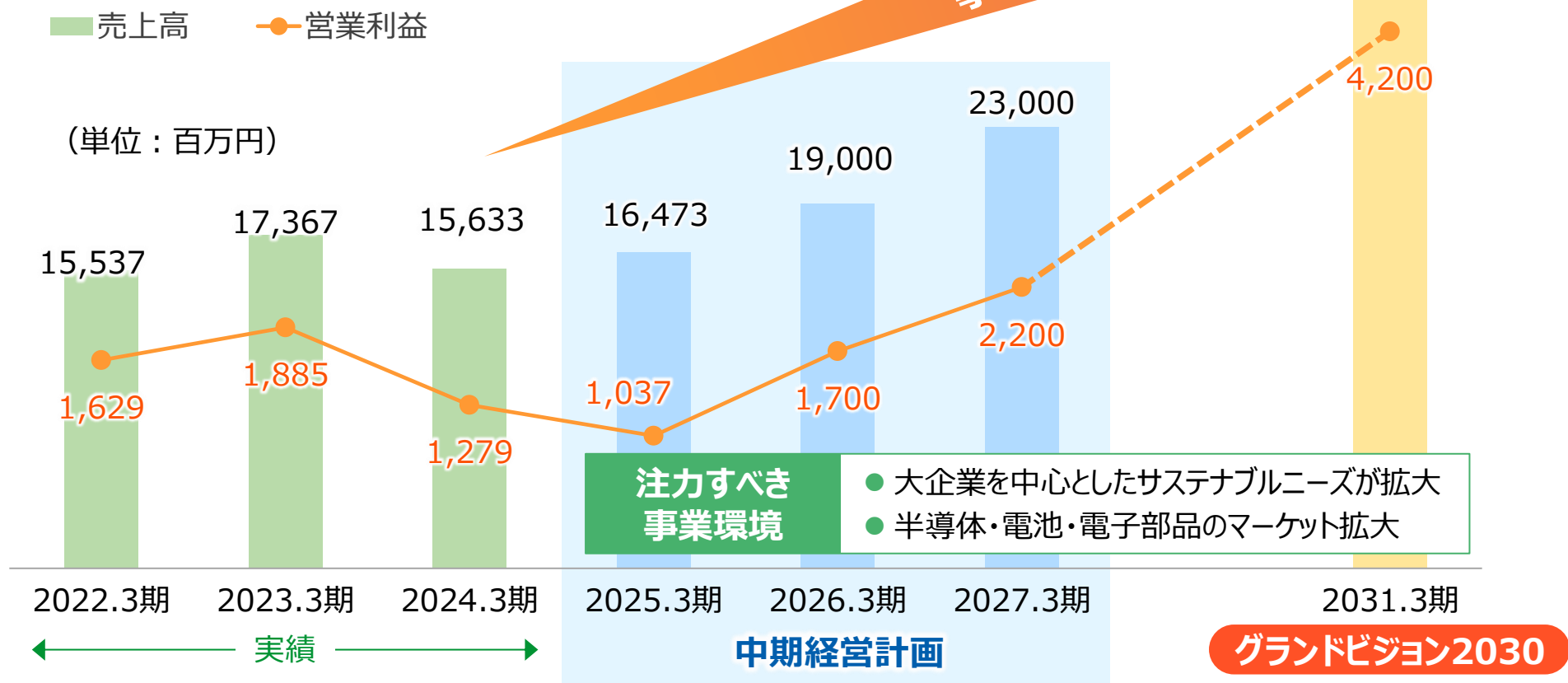
- ① 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有
- ② 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有
- ③ リサイクル企業であり、メーカーである
- ④ 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域
- ⑤ 全国の優良企業との直需取引

⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ
「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- 売上高 350億円 (2024年3月期比 : 2.2倍)
- 営業利益 42億円 (2024年3月期比 : 3.3倍)
- 営業利益率 12% (2024年3月期 : 8.2%)

CAGR
(24.3期-31.3期)
12.2%

事業規模を倍増



業績目標

2027年3月期

売上高

23,000百万円

営業利益

2,200百万円

営業利益率

9.6%以上

EBITDA

3,800百万円

EBITDA：営業利益+減価償却費

グランドビジョン2030に向けた 中期経営計画の位置づけ

確実性の高い安定的な 事業成長・業績拡大

- 25/3期稼働の設備含め、設備稼働率向上
- 東西拠点を中心とした顧客開拓
- 本社地区での車載用電池関連リユース・リサイクル

グランドビジョン2030に向けた 大型投資の実施

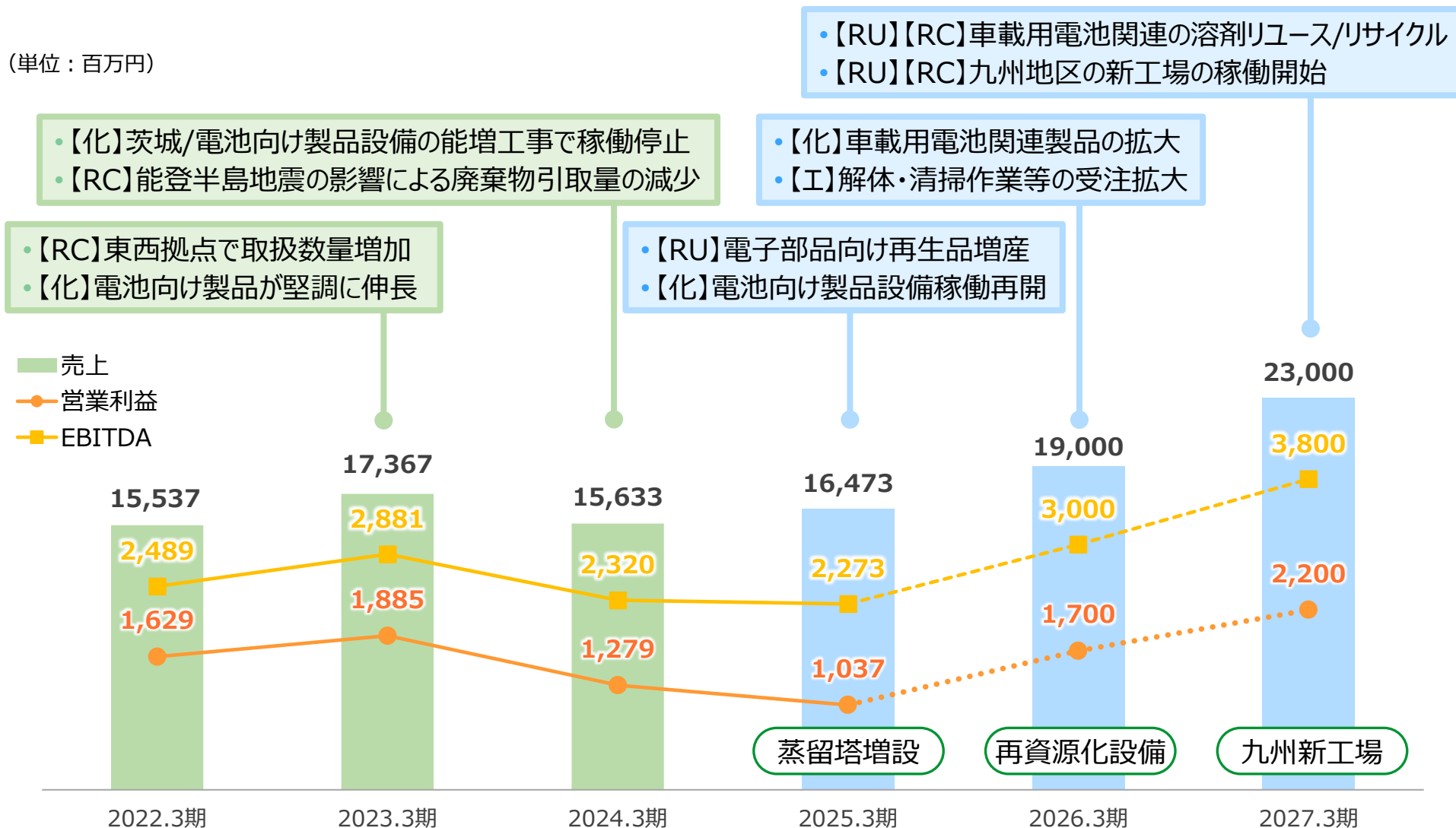
- 約60億円を投資し九州地区に新工場建設
(2027年3月期より稼働開始予定)
- 本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）

- 半導体・電池・電子部品業界向けの製品販売を中心に事業を拡大
- 能力増強のための設備投資も継続的に実施

【RU】リユース、【RC】リサイクル
【化】化学品、【工】エンジニアリング

(単位：百万円)



- ・【RU】【RC】車載用電池関連の溶剤リユース/リサイクル
- ・【RU】【RC】九州地区の新工場の稼働開始

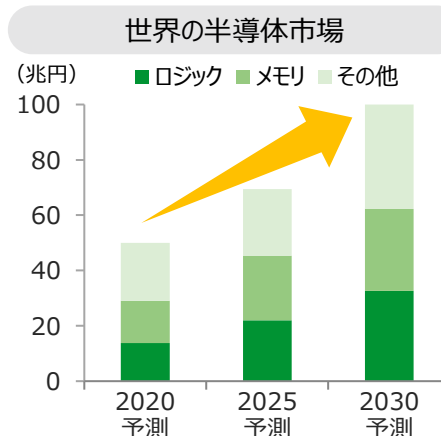
- ・【化】茨城/電池向け製品設備の能増工事で稼働停止
- ・【RC】能登半島地震の影響による廃棄物引取量の減少

- ・【化】車載用電池関連製品の拡大
- ・【工】解体・清掃作業等の受注拡大

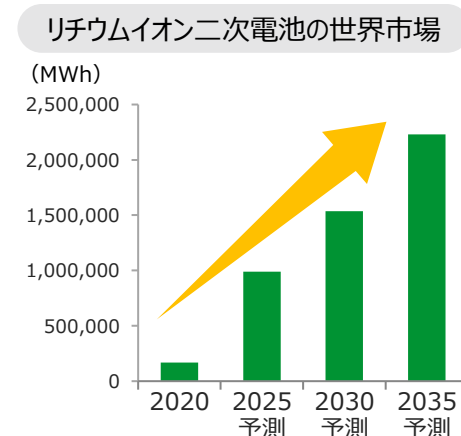
- ・【RC】東西拠点で取扱数量増加
- ・【化】電池向け製品が堅調に伸長

- ・【RU】電子部品向け再生品増産
- ・【化】電池向け製品設備稼働再開

- グランドビジョン2030に向けた次期大型投資の準備
- 1案件あたり数十億円規模の投資を計画



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」
※縦軸は出荷額を表す



出典：矢野経済研究所発表
「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査を実施（2023年）」

本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

- 中長期的に半導体・電池・電子部品のマーケットは確実に拡大
- 半導体微細化で、さらに品質厳格化が進む
- 現時点で再生材の利用は限定的だが、今後は前向き検討が進む
- 生産能力UPとともに、品質レベル向上が必要

⇒ **成長が期待できる業界に対し、さらなる設備増設と品質向上のための研究開発を積極的に進める**

- グランドビジョン2030の実現に向け、約60億円を投資し九州地区に新工場建設
- 成長性の高い半導体業界の再資源化ニーズを取込む



外部環境

- 九州の半導体関連の設備投資に関する試算

半導体関連企業の設備投資額 **4,939億円**（2022年～2024年の平均）
1年あたりの投資額：約**5,000億円**

九州等の成長エリアにおけるリユース・リサイクル

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が活況
- 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
- 半導体を中心とした動脈産業の大きな成長見通しに対し、廃棄物の再資源化を行う静脈産業※の体制は不十分

当社の役割

成長が期待できる地域での新工場建設

- 地産地消の再資源化を実施し、サーキュラーエコノミーの実現に貢献
- 資源調達リスクに対するBCP対応、製造業顧客のコスト低減、バリューチェーンにおけるCO2排出量の低減等に貢献

※静脈産業：資源を加工して有用な財を生産する諸産業を動脈産業ということに対して、それらの産業が排出した不要物等を社会や資源循環過程に再投入するための事業を行っている産業



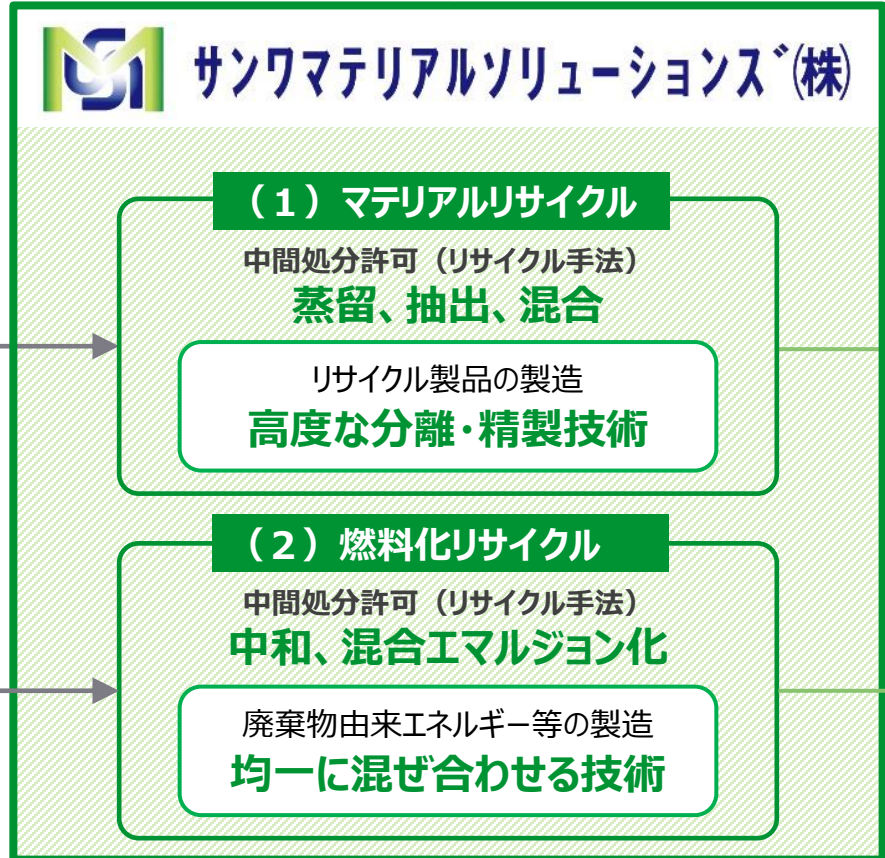
三和油化工業株式会社



エアウォーター・マテリアル

北九州市に工場拠点

合併会社設立



排出事業者

顧客工場から排出される使用済み品(産業廃棄物)

- 有機溶剤
- リン酸
- その他

廃棄物

半導体メーカー
電子部品メーカー等から排出される廃液等を引取

販売先

再資源化し新品同等の製品として販売

- 再生有機溶剤
- 再生リン酸

国内での資源循環に貢献

化石燃料の代替となる再生燃料

セメントメーカー等へ納入

脱炭素志向を背景に化石燃料からのエネルギー転換

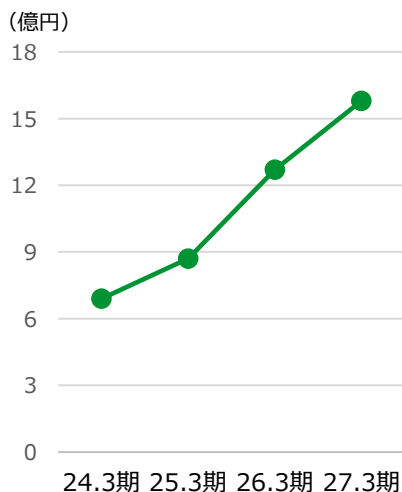
- 九州エリアを中心に成長が見込まれる**半導体・電池関連企業等の産業廃棄物をマテリアルリサイクル**
- マテリアルリサイクルと燃料化リサイクルの2段構えで、**サステナブル社会の実現に貢献**

① 半導体業界向け売上見込

半導体業界の成長に伴う旺盛な需要に対応
高純度溶剤販売で化学品事業を拡大

- 段階的に**設備投資を実施し、生産能力を増強**
 - ・2024年度：本社工場に蒸留塔増設、下期から稼働
 - ・2026年度：九州地区新工場に蒸留塔新設
 ⇒高まる需要に応えることで販売を拡大
- 微細化に伴う**要求品質の高度化及び水平リサイクル**に対応する研究開発の強化

半導体業界向け売上見込



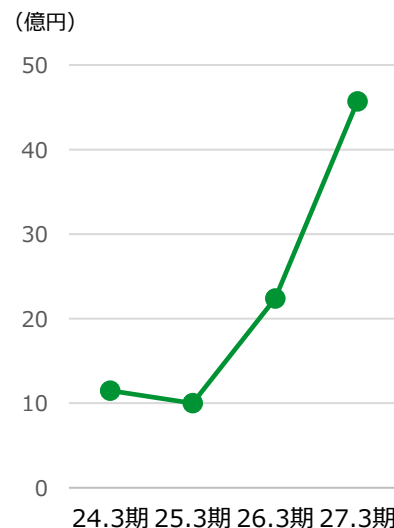
▲本社工場蒸留塔

② 電池業界向け売上見込

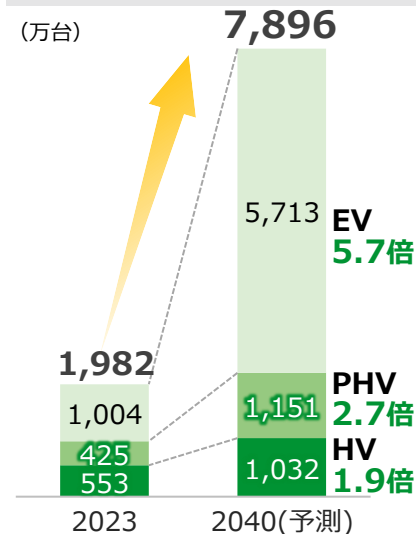
電池向け機能材（バインダー）の販売を拡大
溶剤販売及び再生で化学品・リユース事業を拡大

- **中部地区を中心に次世代自動車の生産が増大**
⇒電池向け製品の販売が拡大
- 欧州バッテリー規則等による環境規制の強化
(リサイクル材の利用率向上及びCO2低減要求)
⇒再生品販売の拡大

電池業界向け売上見込



HV・PHV・EVの世界市場
(乗用車・新車販売台数)



出典：世界のEV・HV・PHV新車販売台数を予測（2024年10月18日）

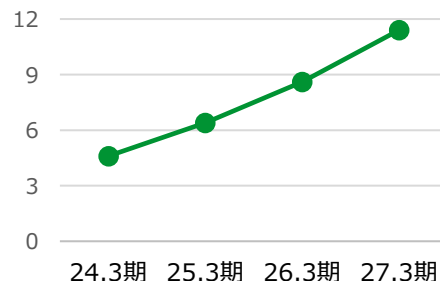
③ 電子部品業界向け売上見込

収集運搬・分析・再生・品質保証まで
当社グループによる**トータルコーディネート**

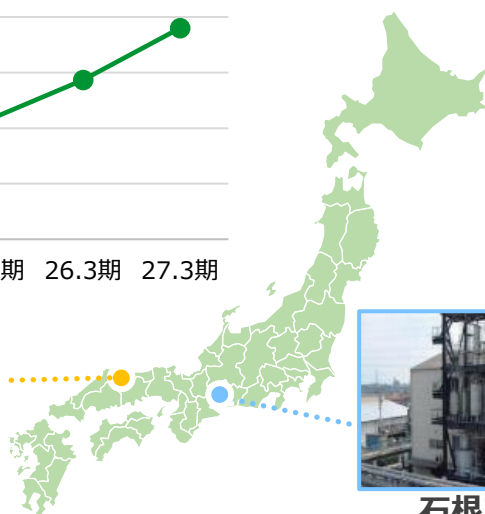
- 電子部品の製造工程で排出される溶剤廃液を再生
- 受託再生、製品販売で売上を拡大
- アライアンス先含め複数拠点にて対応し**地産地消**
(**運送コスト低減、運送時CO2排出抑制**)

電子部品業界向け売上見込

(億円)



アライアンス先
蒸留再生設備



石根工場
蒸留再生設備

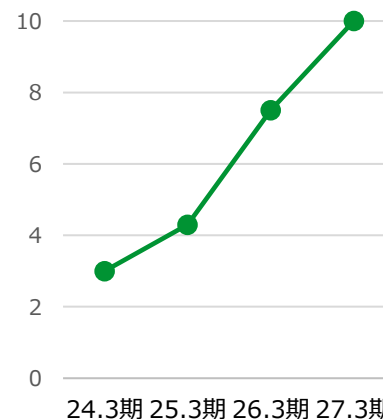
④ 解体・作業等の売上見込

特定建設業許可による**解体から化学物質取扱の
プロとして清掃作業・再資源化まで一手に引受**

- 他事業で培ってきた**石油・化学関連企業との強固な関係性**を活かし、プラント改廃ニーズに応え受注
- 人材確保及び協力会社を増やし多様なニーズに応えることのできる体制整備
- 解体前のアスベスト調査等もグループ会社の機能で分析を実施

解体・作業等の売上見込

(億円)



グループの機能

三和油化工業
廃棄物再資源化
解体・清掃作業等

サンワリユーツー
廃棄物収集運搬
清掃作業等

サンワ分析センター
アスベスト分析等

- 半導体・電池・電子部品業界向け売上および解体・清掃作業等の売上を軸に拡大
- 足元は回復に遅れがみられるものの中長期的な方針に変更はなし

◆ 中期経営計画と成長分野における売上見込（主要な取引先・製品の集計）

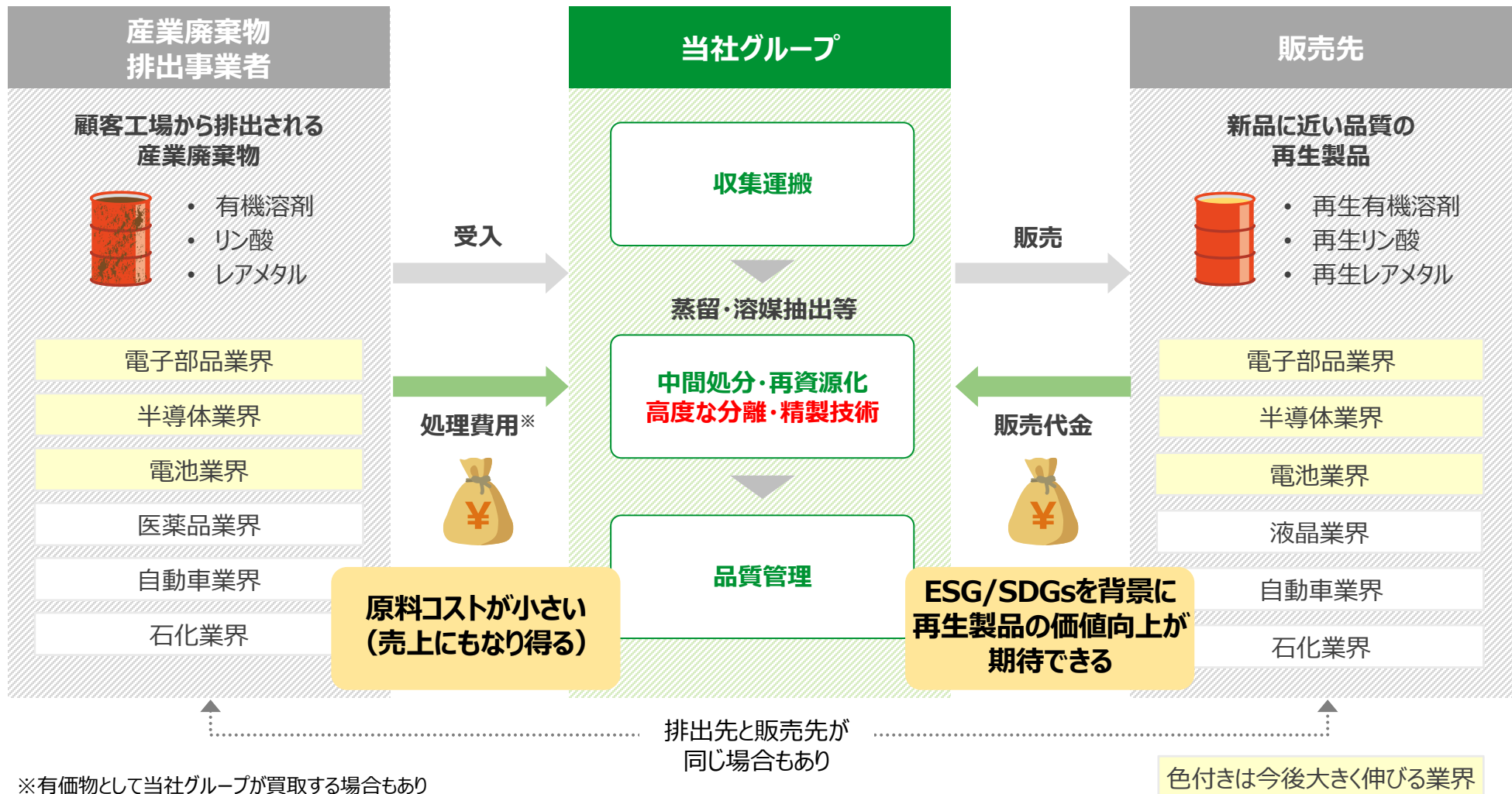
当事業業分類		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
中期経営計画		156億円	164億円	190億円	230億円	
		+8億円		+26億円		
		+40億円				
①	半導体	6.9億円	7.5億円	12.7億円	15.8億円	
②	電池	リユース・化学品	11.5億円	11.4億円	22.4億円	45.7億円
③	電子部品		4.6億円	6.4億円	8.6億円	11.4億円
①-③	引取廃棄物の再資源化分	リユース・リサイクル	14.7億円	13.4億円	18.7億円	22.6億円
④	解体・清掃作業等	エンジニアリング	3.0億円	4.8億円	7.5億円	10億円
①-④ 上記成長分野の合計		40.7億円	43.7億円	69.9億円	105.5億円	
		+3.0億円		+26.2億円		
		+35.6億円				



Appendix

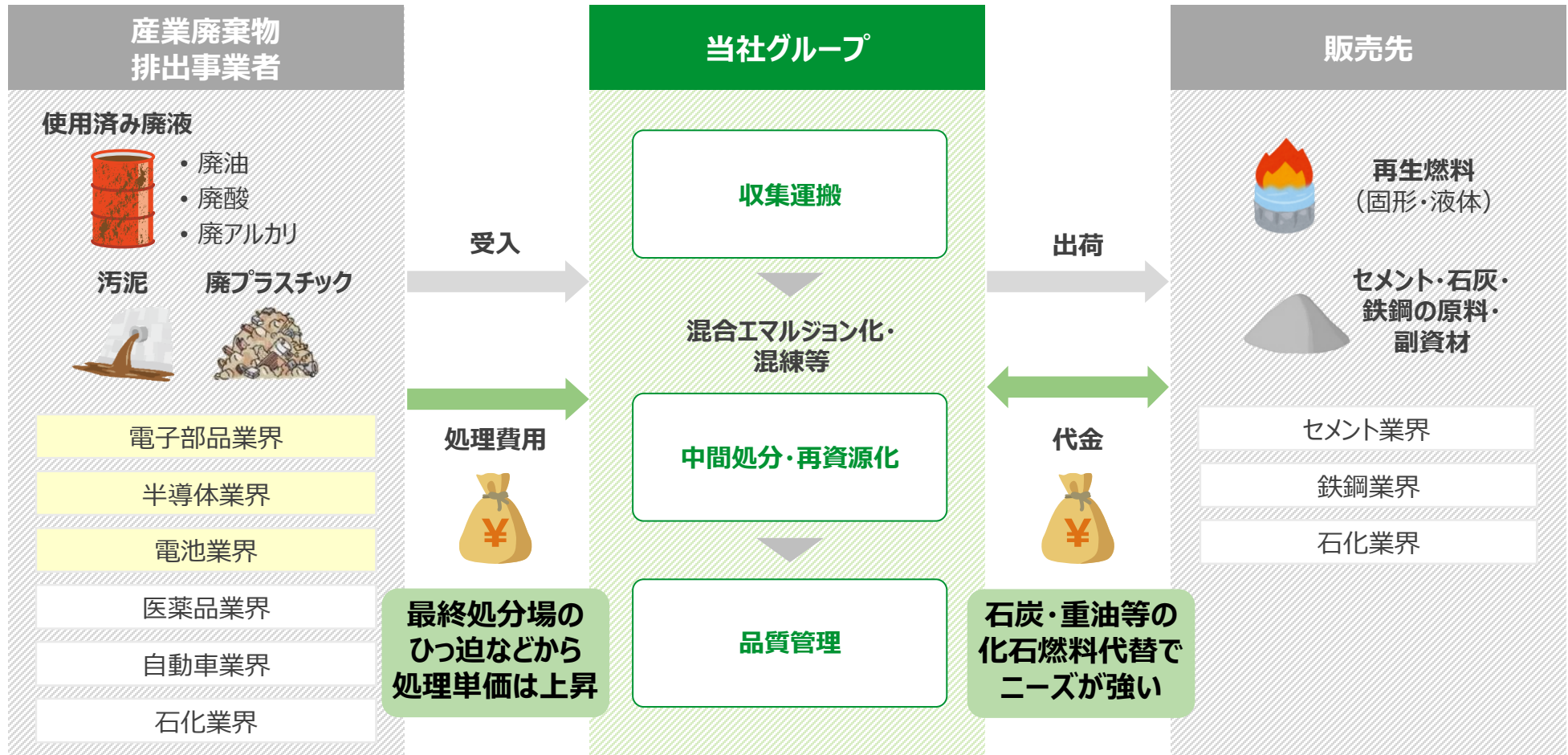


- 回収した廃棄物を**新品に近い品質の再生製品にリサイクル**して資源の国内循環を促進
- 二次産業全般にわたる**多種多様な業界との取引**により、安定的な収益基盤を構築

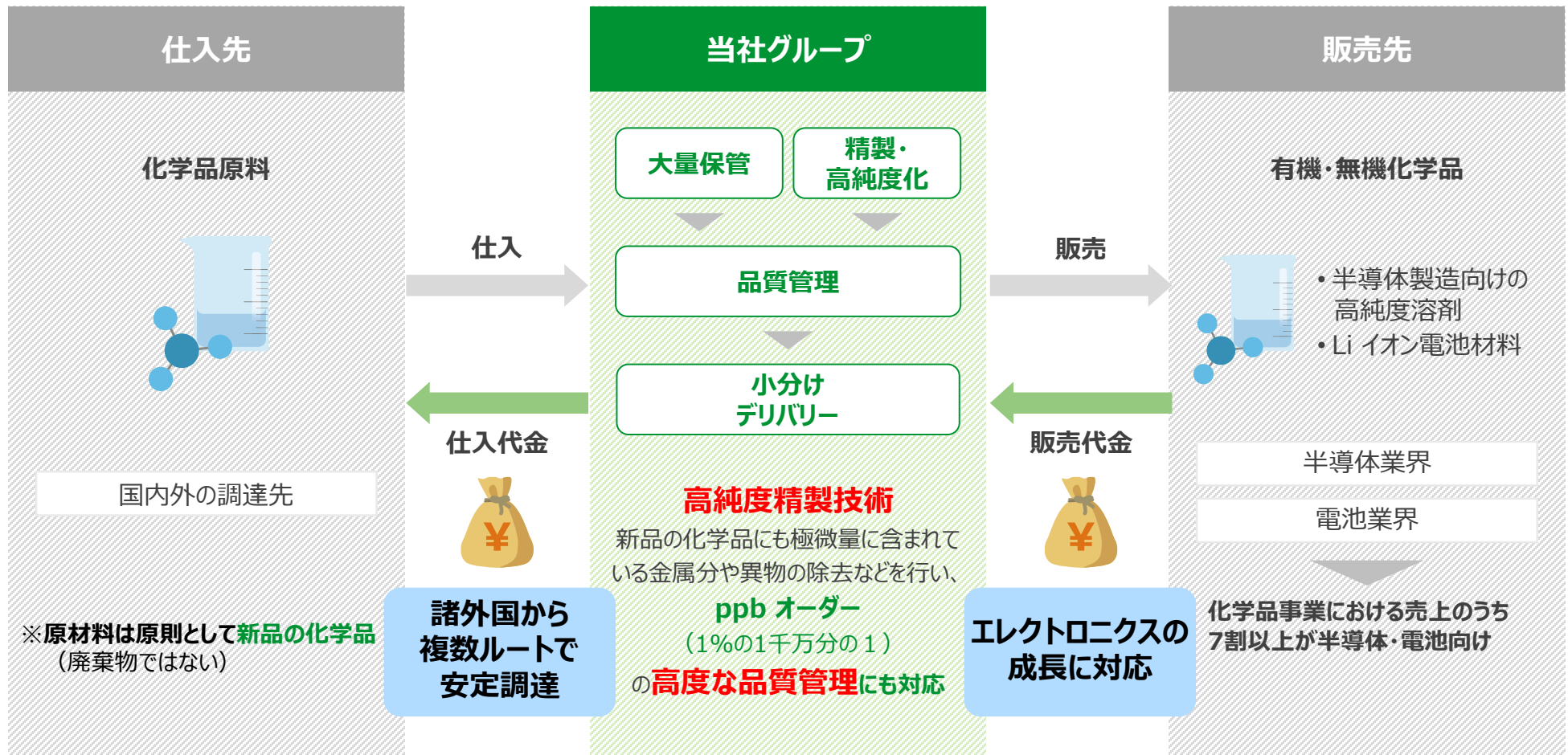




- 素材として再資源化できない産業廃棄物を**再生燃料など別用途へ再資源化**
- **脱炭素**が求められる業界からの需要が高まっている



- 高度な分離・精製・分析技術を活用し、品質要求が高い電子部品・半導体・電池関連メーカーが使用する高品質な有機・無機化学品に精製・高純度化して供給



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。